



香曾我部義則先生の今月のカルテ ④8

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるコラム。前号では、間欠跛行（かんけつはこう）の原因、脊柱管狭窄症と慢性動脈閉塞（そく）症の症状を説明しました。続いて、慢性動脈閉塞症の治療について説明します。

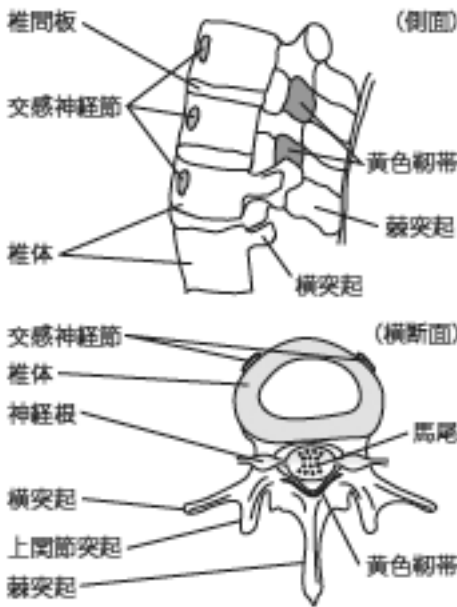
慢性動脈閉塞症の治療は、禁煙厳守から薬物療法を踏まえ神経ブロック療法の併用を

慢性動脈閉塞症は、閉塞性動脈閉塞症と閉塞性血栓性血管炎（パーシャーン病）に分類されます。どちらの病気も禁煙を厳守することから始めなければなりません。また高血圧症、糖尿病、高脂血症を合併していることが多く、これらのコントロールは必須です。

第一の治療は薬物療法です。抗血小板薬、抗凝固療法、血管拡張薬が使用

されます。抗血小板薬、抗凝固療法、血管拡張薬が使用

ペインクリニックでは薬物療法を踏まえながら



第一の治療は薬物療法です。抗血小板薬、抗凝固療法、血管拡張薬が使用されます。抗血小板薬、抗凝固療法、血管拡張薬が使用されます。ペインクリニックでは薬物療法を踏まえながら、神経ブロック療法を行います。カテーテルを挿入することが禁忌となることもあり（出血の危険性が増大したり感染を起しやすくなるため）硬膜外ブロックで効果を確かめた後は、早期に腰部交感神経節ブロックを行います。腰部の交感神経節は図に示すように椎体の両側前方外側に位置し、大きさは小豆大です。この

部位に背中側から針を刺し、ブロックする方法です。実際は、患者さんにはうつ伏せになってもらい透視下（レントゲンを見ながら）に針を進めていきます。針の位置を造影剤によって確認した後、局所麻酔薬を少量注入し、痛みの変化と血流の変化と血流の改善（温度の上昇）を調べます。

効果が認められれば神経破壊薬（高濃度アルコール）を用います。神経破壊薬を使用した場合は、生じる合併症（神経炎など）を避けるため、最近ではアルコールの注入に代わり高周波熱凝固法を用い、交感神経節を焼灼する方法も可能となりました。交感神経ブロックの効果が乏しい、痛みが改善しない場合は有髄電気刺激療法を行います。

梶木病院(西花尻)
☎(293)3335549